

2015年9月1日

日本ラート協会 会員各位

## ラート競技採点規則 2015 の改訂について

日本ラート協会

残暑の候、皆様におかれましては益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。

この度、ラート競技採点規則 2015 の改訂を行いましたのでご連絡致します。

この採点規則は今年の 2015 年全日本ラート競技選手権大会から適用されます。大会参加の際には、内容を良くご確認ください。なお改訂された規則は、下線で示しました。

「ラート競技採点規則 2015」は日本ラート協会ホームページよりダウンロードできます。

<http://www.rhoenrad.jp>

以下に改訂についての詳細を示します。

### 1. 競技審判

#### 1.1.1 協議会の審判構成

実施審判 4 名を 2~4 名に変更

### 2. 選手及び補助者の行動規則

#### 2.1.4 マットの使用

選手は、着地技の際に着地用マットを使用してもよいに変更。（「直転の」を削除）

### 3. 競技採点の一般原則

#### 3.4 実施点の許容範囲

許容範囲を判断する基準を最終得点から実施点の最終得点に変更

#### 3.7.3 演技の中止

1 ユニット（1 運動）で 3 回の逆戻りがあった場合（5.3.1 参照）を「1 つの運動で連続した 3 回の逆戻りがあった場合」に変更

#### 3.8 競技エリアと安全エリア

斜転の競技エリアを以下の通りに変更

競技エリア変更前：14m×14m      変更後：13.5m×13.5m

安全エリア変更前：18m×18m      変更後：17.5m×17.5m

### 4. 直転・斜転演技の採点

#### 4.1 得点構成

D 難度の採用により、難度点の満点を 5.0 点から 5.2 点に変更

#### 4.2 難度の採点

○難度表の改訂に伴い、D 難度：0.8 点を追加

○直転、斜転における満点を 1D7C に変更

○採用する難度表を「ラート競技難度表（直転・斜転）2015」に変更

○斜転の着地技を、側方立ちからの振り跳び下り、もしくは、側方立ちからの振り跳び下り・2 分の

1 ひねりのみに変更

#### 4.3.4 斜転の構成

⑧中心系小斜転の運動：1 運動 を追加

##### 4.4.1.5 エリアオーバーに対する減点

小斜転におけるエリアオーバーの減点方法を変更

変更前：小斜転の場合、エリアオーバーした運動数に関わらず減点は0.1点とする。

変更後：小斜転の場合、中断しない限りエリアオーバーした運動数に関わらず減点は0.1点とする。

中断後、再度エリアオーバーした場合は、さらに0.1点の減点とする。

##### 4.4.2.1 ユニットの定義

ユニットが区切られる場合に以下の4項目を追加

◇直転で逆戻りがあり、運動をやりなおす場合

◇斜転で2回転に満たずに回転面の切り返しを行った場合（余剰回転に対する減点のみ。5.1.10 参照）

◇斜転で申請をして予備回転の1回転を行った場合

◇直転・斜転で大減点/中断があった場合

##### 4.4.2.2 減点一覧

②中減点に以下の2項目を追加

◇1か所の移行での回転方向の切り返しが多い場合の減点（斜転）（5.3.6 参照）

◇斜転における正しくない下り技の実施（5.3.7 参照）

## 5. 直転・斜転の実施減点の解説

### 5.1.10 余剰なラートの回転に対する減点（斜転における余剰回転）

余剰回転に対する減点の内容を追記

変更前：余剰回転に対する減点は、各実施審判の実施の最終得点から減点が行われる。[固定：0.2点]

変更後：、各実施審判の実施の最終得点から固定減点（0.2点）のみの減点が行われ、余剰回転中の姿勢欠点については減点を行わない。

### 5.4 大減点[固定0.8点]

大減点及び演技の中断（安全エリアを出る）が3回目になった場合、主審は演技を中止させ、側方立ちからの振り跳び下りで演技を終了させる（3.7.3 参照）。

## 6. 跳躍の採点

### 6.1.1 一般規則

跳躍に使用するラートのサイズについての規定を変更

変更前：直転で使用するサイズ-10cm以上の大きさでなければならない。

変更後：身長+25cm以上の大きさでなければならない。

### 6.4 跳躍の得点表

各技の価値点を国際規則2010の価値点へ変更

空中でのひねりに対する加点についても国際規則2010の記載内容に変更

以上